

持続的な集落営農の実践、収益性の高い農作物生産による経営多角化 ～農事組合法人 内野営農組合～

経営体の概要

現 在：平成29年
基幹作物：水稲、小麦、大麦、大豆、花菜、ねぎ、マンゴー
経営面積：110ha(水田)

取組の経緯と経営転換のポイント等

国営かんがい排水事業による用水の安定供給、ほ場整備事業による汎用化ほ場を有効に活用した効率的な営農を進めるため、平成9年度に内野営農組合を設立し、水田畑利用の作業受託からはじめ、水稲、麦、大豆を中心とした営農を行ってきた。さらなる持続的な集落営農の実践し、マンゴー等の収益性の高い農作物の生産等による経営の多角化のため、平成23年度に農事組合法人内野営農組合を設立した。

営農改善のポイント

①作物の変化

平成9年度の内野営農組合の設立時は、麦、大豆の作業受託からはじめ、その後、水稲、麦、大豆の集落営農を行うに至った。さらなる経営安定化・多角化のため、水田畑利用による花菜(H19年より)、安土信長葱(H25年より)の栽培をはじめた。平成22年3月にはハウスによるマンゴー栽培をはじめ、「びわマンゴー」として販売し、収益増加につながっている。マンゴー栽培は経営の難度が高いことから、近畿大学湯浅農場への視察等により栽培技術の検討を行い、経営試算等により収益性を十分確認したうえではじめた。



ハウスでのマンゴーの栽培

②栽培技術の確立・向上

営農組合設立以来、大型農業用機械の導入を進め、効率的な農業経営を行ってきた。さらなる効率化のため、鉄コーティング種子による水稲直播に取り組み、労働力の節減、作業の分散化などに役立っている。



直播作業

③流通・販売の工夫

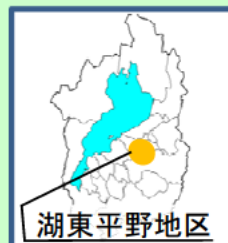
内野集落は、旧老蘇(おいそ)村に属する4集落で連携して、平成19年度に老蘇集落営農連絡協議会を設立した。4集落は平成22年度から平成23年度にそれぞれ法人化した。平成29年度にJAの協力のもと、JAグリーン近江老蘇集落営農連絡協議会を組織してG-GAP(米)を取得した。4法人が協力することで、取得経費の節減になり、今後はG-GAP認証米を販売することが可能となっている。



花菜

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：滋賀県近江八幡市、東近江市、
愛知郡愛荘町、犬上郡豊郷町
受益面受：6,877 ha
事業期間：平成26年～34年
事業目的：用水改良
主要工事：ダム湖内掘削1ヶ所、用水路11km、
地下揚水機22ヶ所、調整池6ヶ所等



湖東平野地区

<問い合わせ先>

近畿農政局 農村振興部
農地整備課 営農担当
電話：075-414-9541
(内線2565)

(平成29年度調査時点)